

フジカラー 160 NL

FUJICOLOR 160 NL

(長露光用)

1. 特長及び用途

フジカラー 160 NL は、ポートレート撮影用としてプロフェッショナル向けに設計された ISO 160/23° の、タングステンタイプの長露光用カラーネガティブフィルムで 1/30~2 秒の低速シャッターを使う場合の撮影に適しています。

タングステン電球 (色温度 3200°K) による撮影には、原則としてフィルターを使う必要はありません。このフィルムはフジカラープロフェッショナルペーパー SUPER FA-P にプリントすることにより、最高品質のカラープリントが得られます。

- ポートレートに適した、なめらかできめ細かい肌色再現。
- ハイライトからシャドーまで、豊富なグラデーションと整ったグレーバランス。
- より忠実で自然な色再現。
- クリアで深みのある仕上りを達成した優れた粒状性とシャープネス。
- 相反則特性も一段と向上。
長露光でもバランスのくずれが少なく、撮影領域を拡大。
- 処理済みフィルムの色画像安定性が飛躍的に向上。

2. フィルムサイズ/乳剤番号/ベース材質

サイズ		乳剤番号
ロール	120 12枚撮り (6×6)	# 601 ~
シート	4×5 10枚入り	# 699

ベース材質

- ロール …………… トリアセテート
- シート …………… ポリエステル

3. 写真感度

光源	写真感度	使用フィルター
タングステン電球 (3200°K)	ISO160/23°	不要
デライト	ISO100/23°	LBA-12°
写真撮影用蛍光灯	ISO125/23°	LBA-4°

* 富士色温度変換フィルター

4. 長時間露光時の露光補正

4 秒以上の低速シャッターを使用する場合は、下記の露光補正表を参考にして、露光量を補正してください。

タングステン電球 (3200°K)

シャッター速度 (秒)	4	16	32
露光補正值 (絞り)	½絞り開ける	1絞り開ける	1絞り開ける

5. 各種光源での撮影方法

このフィルムは、光源にタングステン電球 (色温度 3200°K) を用い、指定のシャッター速度で撮影した場合、最も標準的な仕上がりが見られるように設計されています。

各種光源で撮影するとき、特殊な場合を除いて被写体の照明比を 1:2~1:4 の範囲内に設定することをお勧めします。

タングステン電球 (3200°K)

電圧 100V に調整して使用します。

色温度は点灯時間や総点灯時間の長短によって変化しますので露光条件を確認してください。

デライト (昼光)

昼光下での撮影の場合には富士フィルター LBA-12* を使用し、写真感度を ISO100/21° にして使用してください。4 秒以上の長時間露光の場合には補正が必要になります。露光補正表を参考にしてください。

* 富士色温度変換フィルター

フォトリフレクターランプ (昼光色写真電球)

フォトリフレクターランプの撮影の場合には、富士フィルター LBA-12* を使用し、写真感度を ISO100/21° にして使用ください。

昼光色写真電球は他の人工光源に比べ露光不足になりやすい光源であるため、露出計で得られた露光条件よりも、露光を多少増量しなければならない場合があります。また、使用する電球は同一メーカーのものでも、点灯電圧や使用時間によって光量やカラーバランスが変化するため、あらかじめ使用する器具で露光条件を確認ください。

* 富士色温度変換フィルター

写真撮影用蛍光灯

写真撮影用蛍光灯による撮影には、富士フィルター LBA-4* を使用し、写真感度を ISO125/22° にし、かつシャッター速度を 1/30~2 秒の範囲で使用してください。

* 富士色温度変換フィルター

6. 照明用具

- 照明光源の光量を調節したり、光を拡散させる目的で用いられる反射がさ、リフレクターランプ、ディフューザーなどは、その材質および反射面が変質していないことや、光源の色質を変えないものであることをあらかじめ確認してください。

7. フィルムの取扱い

- 未処理の生フィルムは全暗黒下で取り扱ってください。セーフライトは使用できません。
- フィルム外箱にある有効期限内に撮影・現像処理を必ず完了してください。
- ロールフィルムのカメラへの装填・取り出しは直射日光を避けて、すばやくおこなってください。周囲に日陰がない場合には、太陽に背を向け、自分の影の内でおこなってください。
- フィルムをカメラに装填したら、できるだけ短期間に撮影を完了し、速やかに現像処理をしてください。
- 空港の手荷物検査時に使用される X 線が強いほど、照射累積回数が多いほど、またフィルム感度が高いほど、その影響（カブリの発生）は大きくあらわれます。従って、その都度、荷物からフィルムを取り出し、フィルムに X 線をあてないように空港の係官に申し出て、手検査を受けることをお勧めします。
- 病院、工場、研究所などの放射線を取り扱う場所でも、フィルムはかぶるおそれがあります。

8. フィルムの保存

現像処理前

- 現像処理前（未露光・露光済）のフィルムは温度、湿度が高いほど写真性能に悪影響を受けやすくなります。現像処理前のフィルムは次の条件で保存することをお勧めします。

保存場所・温度：

{	○ 冷蔵庫（温度 10℃以下）
	○ 特に長期に渡る場合
	冷凍庫（温度 0℃以下）

- 新建材や新しい家具は塗料や接着剤から、フィルムに対して有害なガスを発生するおそれがあります。このような場所にはフィルムあるいはフィルムを装填したカメラやホルダーを収納しないようにしてください。
- 冷蔵保存及び冷凍保存されたフィルムを使用するときは室温に戻して（1~2 時間以上待つ）から開封してください。温度が低いうちに開封すると結露して、フィルムが使えなくなるおそれがあります。

現像処理後

- 現像処理後のフィルムは、光、熱、湿気によって画像の変退色が発生します。これらの悪影響を避け、画像を長期間安定に保つためには、ネガシートやビニール袋に入れ、なるべく暗く、通気性の良い次のような条件で保存することをお勧めします。

推奨温湿度：

{	○ 温度 25℃以下，相対湿度 30~60% 範囲
	○ 長期保存を必要とする場合
	温度 10℃以下，相対湿度 30~50% 範囲

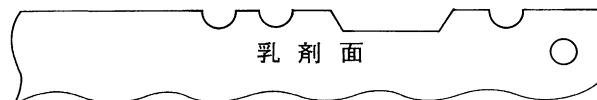
注 このカラーフィルムの色素は、他の色素と同様に年月の経過により変化します。

9. 現像処理

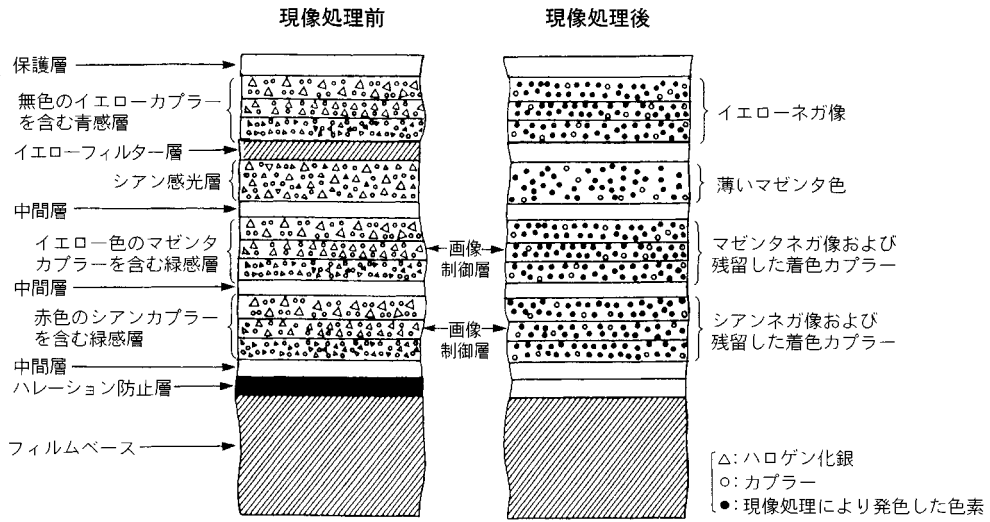
このフィルムは当社指定の CN-16 処理で現像処理されます。また C-41 および同等の処理にても現像することができます。

10. シートフィルムのコードノッチ

図のように、コードノッチが右上すみになるようにして持つと感光面（乳剤面）が手前になります。



11. 層構成



12. 拡散 RMS 粒状度

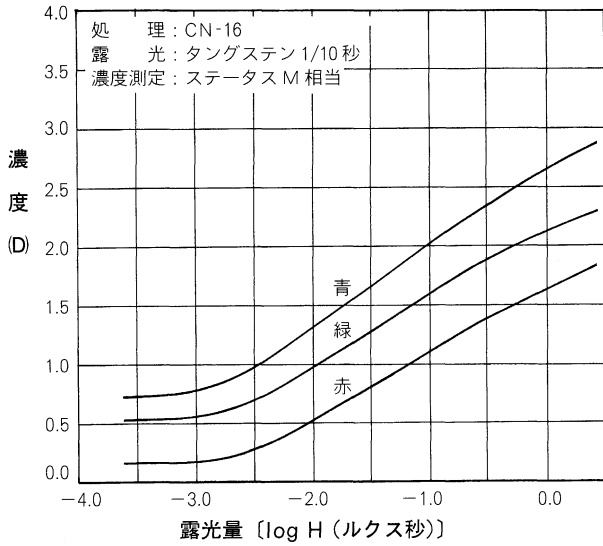
..... 4

マイクロ濃度計の測定アパーチャー：48 μm φ
 試料の濃度：最小濃度+1.0

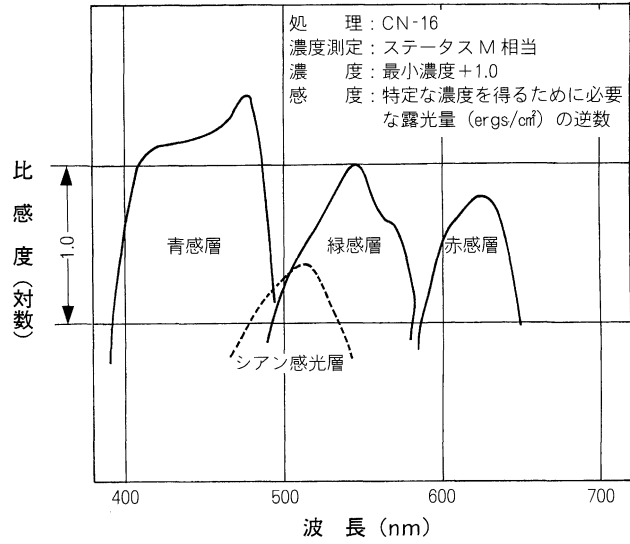
13. 解像力

チャートのコントラスト 1000 : 1 125 本/mm
 チャートのコントラスト 1.6 : 1 63 本/mm

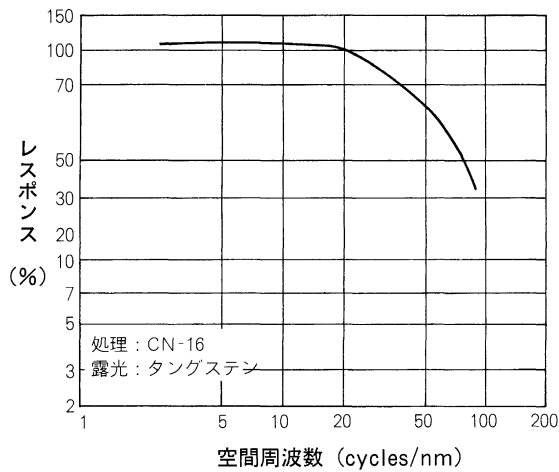
14. 特性曲線



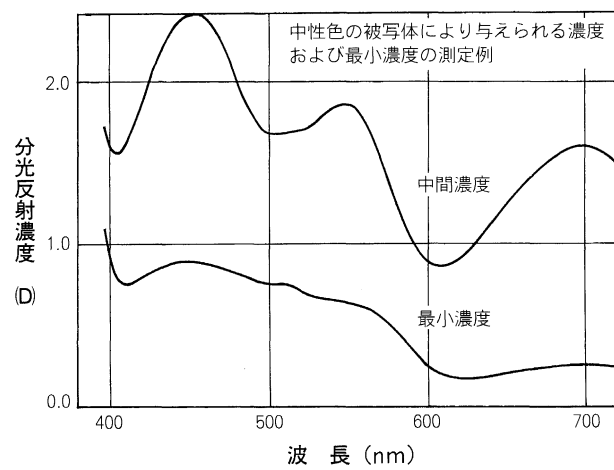
15. 分光感度曲線



16. MTF 曲線



17. 色素の分光感度曲線



注 このデータシートに記載されているデータ類は、当社で通常実施している試験による結果を表示するものです。当社は製品の性能を常にグレードアップしようとしていますので、製品の改良によって、これらの特性は予告なく変更されることがあります。



富士写真フイルム株式会社

プロフェッショナル写真部

東京本社 / 〒106-8620	東京都港区西麻布2-26-30	TEL 東京 (03)3406-2094
大阪支社 / 〒541-0051	大阪市中央区備後町3-5-11	TEL 大阪 (06) 205-6470
札幌営業所 / 〒060-0002	札幌市中央区北2条西4-2	TEL 札幌 (011)241-7164
仙台営業所 / 〒980-0811	仙台市青葉区一番町4-6-1	TEL 仙台 (022)265-2121
名古屋営業所 / 〒460-0008	名古屋市中区栄2-10-19	TEL 名古屋 (052)203-6261
広島営業所 / 〒732-0816	広島市南区比治山本町16-35	TEL 広島 (082)256-3311
福岡営業所 / 〒812-0018	福岡市博多区住吉3-1-1	TEL 福岡 (092)281-0231